タフな心と体で挑む

地域おこし協力隊が、まちの魅力を再発見

10月3日、本市で3人目の地域おこし協力隊として、砂子間正貫さんが着任しました。

「着任直前まで、サハラ砂漠でラクダを引いていました」と仰天エピソードを語る砂子間さんは、神奈川県出身の35歳。11年間サーカス団員として日本全国でショーに出演し、舞台の音響・照明係などをこなしながら、野球にも全力投球。欽ちゃん球団こと「茨城ゴールデンゴールズ」の外野手として5年間活躍していたという異色の経歴を持っています。その中で、たくさんの人と交流し、さまざまな魅力を発見してきた経験から、「地域おこし」への情熱が芽生えたそうです。

着任後、市内の空き家に居を構えた砂子間さんは「知らない土地に入っていく勇気と体力、精神力は十分です。たくさんの人とふれあい、一緒に地域の新しい魅力を発掘したい」と目を輝かせました。

今回の地域おこし協力隊は、たがわ魅力向上課に所属し、地域の観光資源や新たな魅力の発掘と、インターネット上のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した情報発信などを担当。多彩な経験を持ち、WEBニュースのライターとしても活動している砂子間さんは、まさに適任の人材として、今後の活躍が期待されます。

▲二場市長と固い握手を交わす砂子間さん(左)

PROFILE 砂子間正貫 隊員

▲サハラ砂漠で観光客の乗ったラクダを引く砂子間さん

神奈川県横浜市出身。明治学院大学を卒業後、11年間木下サーカス（岡山県岡山市）に所属。サーカス団員として全国を巡りながら「茨城ゴールデンゴールズ」の選手としても5年間活躍していた。サーカス中の転落事故による負傷がきっかけで平成27年9月に木下サーカスを退団。その後はWEBニュースサイト「ロケットニュース24」のライターとして活動し、地域のさまざまな情報を新たな切り口で発信している。

先輩隊員からのメッセージ

大平　太士 隊員
（産業振興課 / 伊田商店街担当）

お互いに野球やパフォーマーの経験者。そんな共通点を生かして、情報を共有しながら、地域おこしを頑張りましょう！

菅原　あい 隊員
（産業振興課 / 後藤寺商店街担当）

偶然にも協力隊員はみんな関東出身。仲間が増えてとても心強いです。力を合わせて、田川市を盛り上げていきましょう！

シリーズ

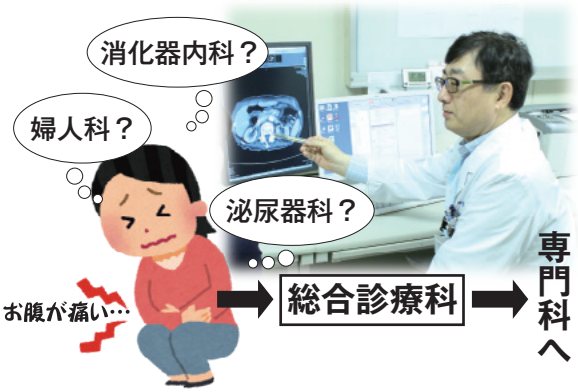
田川市立病院だより

●くわしい情報はHPで検索

田川市立病院　検索

クリック

「総合診療科を開設しました」―総合診療科



当院を始め多くの総合病院では、診療科が細かく分かれているため、最初にどこの科を受診したらよいのかわからない患者さんが多いのではないでしょうか。このような患者さんの初期診療を行う科として、7月1日に新しく総合診療科を開設しました。

例えば腹痛の場合、その原因は胃潰瘍や膵炎、胆石症など消化器の疾患だけとは限りません。子宮や卵巣の疾患などの婦人科疾患や、尿管結石症など泌尿器科の疾患が原因になっている場合もあります。そこで当科では、紹介状を持っていない初診患者さんの診察を行い、必要に応じて専門診療科へ紹介します。

このように、総合診療科を最初に受診することで原因がわかれば、複数の診療科を受診せずにすみ、スムーズに専門診療科での診察を受けることができます。

どの診療科を受診したらいいのか迷ったときは、まずは総合診療科を気軽に受診してください。

病院ボランティア募集！　●問い合わせ　田川市立病院（☎44－2100）